

令和7年3月号

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



例年通りノコノコとやってきた鬼、けれども今年は雰囲気少し変?



はいっ入れて入れて! ありがとうございます!



ありがとうございます! はいよう!

例年のように荒ぶる様子もなく、カゴをもってウロチョロ。何かを回収しているような動き...



今度はあちらをおねがいします! この鬼、患者さんによく似てる... 任せとけ!



元気がいい鬼だねえ! さあさあぶらぶら!

どうやらボールを集めるゲームのお手伝いのようです。鬼さん来年も待ってますよ!



お手伝いしますよ! これども!

～目次～

- 病院短信 島村 美郷
- 日常の一コマ 新野 美智子
- いきいき看護・介護 渡邊 有香
- 作業療法科だより 小島 大輔
- 節分&誕生会 デイルームにて
- スタッフ紹介 渡嘉敷 直美

3月の予定

◇誕生日会

- 1病棟 3月11日(火)
- 2病棟 3月7日(金)
- 3病棟 3月10日(月)
- 各病棟デイルーム 14:00~



スタッフ紹介

3病棟 介護主任
とかしき なおみ
渡嘉敷 直美

出身：浦和
好きな食べ物：くだもの全般
特技：どこでも寝られること



私の今の楽しみは、コロナ禍で中断していた、友人たちとの月に一度の食事会や年に一度の旅行を再開させたことです。60歳を過ぎた頃からみんなで集まると必ず出る話が健康のこと(笑)。そして親の介護や孫の話です。帰る時には「元気でまた来月ね…」と。自分の健康だけでなく友人たちも健康でいてほしい、そう願う毎日です。



病院短信

「一期一会の心で」

1病棟看護部長 島村 美郷

今年も早いもので三月になりました。まだまだ寒い日がありますので、春が待ち遠しいこの時期です。

先日、仕事が終わって外に出てみると、正面玄関の真上で壮大な満月がまばゆい光を放っていて、力強いパワーをもたらした気分になりました。セントノア病院で働いていると、出勤時は燃えるような朝日に迎えられ、仕事終わりは優しく照らす夕日に見送られます。とても素晴らしい環境だと思います。

今年の仕事始めの時にふと病棟で感じたことがあります。それは、『女性患者さんの元気の良さ』です。まるで女子会のように楽しそうにお話している姿を見て、なんだかとても嬉しくなりました。当院は男女比がだいたい「3:3」で女性が多いのですが、80代や90代の女性はホントにお元氣だなと実感します。

病棟の中には、常に「お腹がすいたよ」とか「ご飯はまだ？」とか、食事を心待ちにしている患者さんが多いです。院長先生は「人が口から食べるといことは、どんな薬よりも優れた治療だ。食べられなくなることはとても辛い。最期まで食べられるような工夫をするのが私たちの役目だ」と常々話しています。そこで、患者さん一人ひとりが時間をかけても食べられるように食事形態をじっくり検討して、満足感が得られるように工夫しています。

私の好きな言葉の一つに『一期一会』という言葉があります。一度きりの出会いや瞬間を大切にしようという心構えを表す言葉でもあり、二度と訪れないこの瞬間を大切にしようという教訓を伝える言葉でもあります。ある患者さんは、一日に何回も「トイレに行きたい」と言います。それに対して「今行ったらばかりですよ」という言葉は決して口にせず、訴えのたびに一緒にトイレへ付き添うスタッフを見て安心しました。患者さんにとっては全ての行動が初めてのことで、まさに「一期一会」ですから。患者さん一人ひとりの訴えに全て応えることは難しいのですが、これまでの経験を活かしながら、しっかりと耳を傾け、楽しく笑ってケアが出来るよう頑張っていきたいと思っています。

日常の一コマ

今月は2病棟の洋子さん(89歳)をご紹介します。葛飾区の金町にて7人兄弟の2番目として生まれた洋子さんは、洋裁学校を卒業して、洋裁の仕事に携わりました。28歳で結婚して専業主婦となり、息子さんを成人まで育て上げた後は、ご主人と二人暮らしで、ご兄弟や近所のご友人たちと仲良く過ごされていたそうです。平成29年、ご主人に先立たれてからはお一人で暮らしていましたが、時々息子さんが訪問して生活をサポートしていました。その翌年、持病で通院していた病院でアルツハイマー型認知症と診断されましたが、服薬治療を続けながら生活を続けていました。ところが、数年かけて認知症の症状は徐々に進行していったのです。令和6年頃には、食事の量がどんどん減っていき、道に迷って警察に保護されたり、自宅前で倒れて救急搬送されたりすることがあったそうです。自宅で過ごすのはかなり難しい状況だったため、精神科の病院と特別養護老人ホームへ入院・入所しましたが、認知症の症状は悪化する一方で、認知症の専門的ケアと長期入院が可能な当院へ転院する運びとなりました。

入院当初の洋子さんは落ち着きがなく、車いすをずり落ちるようにすり抜けてテーブルの下から出てきたり、急に大声で怒り出したりすることも多く、対応がとても難しかったです。夜間もあまり眠れないようで、ベッドから降りようとベッドの上に立ち上がったため、すぐ近くで常に見守りをしなければならぬとても危険な状態でした。



それでも根気強く見守りを続けた結果、少しずつ当院の生活に慣れてこられました。

入院して4ヶ月ほど経過した今では、だいぶ落ち着いて生活が出来るようになりました。洋子さんの周りにはいつも人が溢れ、笑いが絶えません。「ラーメン買ってきて食べましょう」と人をもてなすことが好きな洋子さんと毎日楽しく過ごしています。

朝一番のラジオ体操は、誰よりも元気に体操しています。いつまでも洋子さんの笑顔が続くよう、寄り添っていきたいと思います。

2病棟 介護福祉士 新野 美智子

作業療法科 だより

作業療法士 小島 大輔

今年の冬は暖冬と言われていたものの東北や北海道で大雪が降り、関東でも朝晩に外へ出ると「しばれる」(北海道の言葉で痛いくらいに寒いという意味)ことも多く感じました。

さて、今回の作業療法科だよりはそんな寒さも吹っ飛ばす『豚汁の試食会』のお話を紹介したいと思います。…とその前にまずは大根の収穫の話から。

実は今年の大根は不作で、収穫作業をしてくれた患者さんからは思わず「なんだこりゃ！ニンジンみたい」と言われてしまうような物も多かったのです。小さい大根で何を作ろうかと迷いましたが、去年の秋に豊作だったさつまいも(と大根)が主役の豚汁に仕上げてみました。出来上がった豚汁は皆さん「出汁がきいてて美味しい」「さつまいもが入ると甘くなるね〜」「大根も悪くないよ」と高評価で一安心しました。

来年こそは太くて立派な大根が育ち、大根が主役の料理を皆さんに召し上がってもらえればと思います。



いきいき看護・介護

1病棟 介護福祉士 渡邊 有香

ずいぶんと日が沈むのも遅くなりましたね。

3月と言えば、いよいよ桜の季節の到来です。

「あれ？早くない？」と感じますが、関東の開

花は例年3月下旬ごろなので、そんなに早い

こともないと思いますよ。

また3月の和名は「弥生」と呼びますが、他にも「花月(かげつ)」「桜月(さくらづき)」とも呼ばれるそうです。ますます春らしい感じ

ですよ。

そんなウキウキワクワクする季節ですが、病

棟で過ごす患者さん達は外へ出る機会が少な

く、なかなか季節を感じる事が難しいです。

なので、その季節に合った歌を患者さんと一

緒によく歌っています。昔、耳にしたり口に

した歌はよく覚えていて、「春が来たる、春が

来たるよ」と歌い出すと、「ど〜こ〜に〜来

たる」と続けて下さいます。歌うとほんの少し

でもその季節を感じてもらえるのではないで

しょうか。

日本には一年を通して四季それぞれの歌がた

くさんあります。今日も患者さん達と色々な

歌を歌い、うらかな春の陽気を楽しんで過ご

していきたいです。

